

医師事務作業補助者の活用の1例

～医師事務作業補助者のオールラウンドな臨床支援の在り方～

○田中 有希子

(医療法人会社団沼南会 沼隈病院)

平成20年度の診療報酬改定において導入された「医師事務作業補助者体制加算」は、その後、診療報酬改定のたびに拡充がなされ、高く評価されてきた。この加算は、「医療従事者の負担軽減」と「働き方改革の推進」と結びついており、医師事務作業補助者に対する期待は高く、多くの病院で導入が進んでいるが、医師事務作業補助者の業務水準については各病院に委ねられている。

沼隈病院（以下、当院）では、医師事務作業補助者は、「ドクターアシスタント（DA）」と呼称されており、現在、当院には医師事務作業補助者が4名配置されている（加算1の20対1）。大学病院や基幹病院などとは異なり、医師事務作業補助者の数は限られている。このため、当院の医師事務作業補助者は特定の診療科や業務に特化せず、さまざまな領域や診療科に対応し、各科のニーズに応じて臨床業務をサポートしており、医師をはじめとする医療専門職の業務負担を軽減し、医療機関全体の効率向上に寄与している。

その業務内容は、各種医療文書の作成支援、診療録（電子カルテ）などの代行入力や検査・処方注射などの代行オーダー等を含む外来・入院診療事務補助、レジストリ登録などの医療の質の向上に資する事務作業、非常勤医との連絡・調整などの秘書的業務など、多種多様な支援の提供を行っている。

今回、地域の中小規模病院におけるオールラウンドな医師事務作業補助者の臨床支援に焦点を当て、医師事務作業補助者の活用の1例として、当院の事例を紹介する。